

令和2年度 第1回 碧南市図書館協議会 会議録

1 日時

令和2年7月15日（水）午前10時～午前11時30分

2 場所

碧南市芸術文化ホール 2階 楽屋6、7

3 出席者

(1) 出席委員

宮本美枝子、浅井久夫、石川和昌、小島真由子、長田康弘、杉浦卓郎、
角谷千佳子、山内えりか

(2) 欠席委員

杉浦正勝、神谷俊幸

(3) 事務局職員

教育長：生田弘幸、教育部長：岡崎康浩、文化創造課長：杉浦宏真、
市民図書館副館長：関由香、南部分館長：大橋幹広、
中部分館長：長谷川有里、市民図書館係長：長田和子

4 傍聴者

0名

5 協議会内容

市民憲章唱和

(1) 教育長あいさつ

(2) 会長あいさつ

(3) 議題

議題

(1) 「碧南市の図書館サービス計画（第二次）」の進捗状況について

事務局

議題1に入る前に資料の修正をお願いしたい。資料『碧南市の図書館2020』の30ページにある「(3) データベース等の利用」という表の閲覧数について、上から11、4、0となっているが、正しくは、上から20、9、1である。それでは、議題1「碧南市の図書館サービス計画（第二次）の進捗状況」について事務局より報告する。この議題は、本来であれば昨年度の第2回目の協議会で取り上げる予定であったが、新型コロナウイルスにより会議が中止となったため、本日の協議会で報告する。これは、平成29年度から10年計画で定めたもので、図書館運営の指針となるものである。この計画のなかで図書館の取り組みとして挙げた各事業の平成30年度進捗状況について、資料「進捗状況（前期）」に沿って報告する。「碧南市の図書館サービス計画(第二次)」は、4つの大きな柱のもと事業を策定している。4つの柱とは、「1 豊かな情報源としての図書館」、「2 誰もが利用しやすい図書館」、「3 地域の歴史や文化・産業を育み、次世代へとつなぐ図書館」、「4 市民とともに進化する図書館」である。各事業名のとなりには、A、B、Cという記号が入っているが、Aは、計画策定前から実施していて継続して実施するもの。Bは、計画中に新規で実施する予定のもの。Cが、計画中に実施を検討・調査するものである。時間の都合により、実績が数値であらわせる事業を中心に、「1 豊かな情報源としての図書館」、「2 誰もが利用しやすい図書館」より抜粋して報告する。まず「(1) 資料の収集」から、「碧南市に関する資料（郷土資料）の積極的な収集」について、平成29年度は481件だったが、平成30年度は369件であった。前年度より112件の減となっているが、これは

平成29年度に碧南市のパンフレット類をさかのぼって収集したため、平成29年度は他年度と比較しても数値が大きくなっている。近年、碧南市はじめ郷土について調査する人が増えてきている。また、郷土資料は図書館にとって重要な資料であるため、今後も継続して収集に力を入れていきたい。次に、「芸術文化ホールの催事に関連した資料」については、CD15点、DVD4点の合計19点を購入した。以前から、隣接する芸文ホールの催事にあわせて図書館内のAVコーナーで特集を組んでおり、チラシやCDはじめ関連資料を置いてPRしている。今後も、芸文ホールとは利用者へのサービスを相互に展開できるよう協力していきたい。

続いて、「(2) 資料の保存と廃棄」のうち「効率的で適正な蔵書の保存」について報告する。この事業の指標として「蔵書更新率」とあるが、これは、蔵書がどれだけ新しくなったかを示す尺度で、その下の「蔵書新鮮度」は、蔵書に占める新しい資料の割合のことである。平成30年度はどちらも微増しているが、平成28年度と比較するとやや低い値となっている。一般的に古い資料は利用が少なくなるため、この数値が下がると、新しい資料を求めて利用する人には魅力の乏しい図書館に感じられてしまう。一方で、調べ物を目的として図書館を利用する人には古い資料も必要なため、資料の保存と廃棄のバランスが重要である。引き続き、そのバランスに留意しながら蔵書管理を行っていきたい。

次に、「(3) インターネットを使ったサービスの活用」について、まず、平成30年度は図書館で利用できるデータベース及びデジタルコンテンツに、中日新聞のデータベースが新たに加わった。また、以前から検討材料となっていた持ち込みパソコンの専用席を4席新設した。なお、パソコン専用席では電源の供給はしているが、Wi-Fiについては施設の構造上導入が難しいとのことで当面は保留となっている。

次に、「(4) レファレンスサービスの強化と活用」について説明する。「レファレンス」とは、図書館職員が担う大切な役割であり、利用者と資料をつなぐためのサービスで、所蔵する資料を効率的に活用してもらえよう行うものである。本館では独立したレファレンスカウンターを設けるなどして、力を入れている。「レファレンス」というと聞き慣れない人もいるかもしれないが、利用者にはじわじわと浸透してきている。平成30年度には7,902件のレファレンスを受け付けており、増加傾向にある。

続いて、「2 誰もが利用しやすい図書館」について報告する。配布した資料では、利用者の年代や特性別に事業をあげ、進捗状況をまとめている。まず、「子ども・ヤングアダルト」については、学校等への団体貸出関連を指標とした。団体貸出の活用状況については、「団体貸出数」と「調べ学習に役立つ資料の所蔵冊数」がやや増加している。これは、幼稚園、保育園、小中学校だけでなく、児童クラブや子育て支援センターなどからも貸出の依頼が増えたためである。また、「既存の推薦図書リストの見直しと改定」を平成30年度に行い、年齢別のおすすめ本リストを更新した。更新したリストは特集コーナーにおいて配布し、リストに掲載した本の展示も行った。次に、「成人へのサービス」では、「時事問題を取り入れた複数の特集コーナーの設置」について報告する。平成30年度も時事問題をヒントに集めた資料を特集コーナーに設置。設置回数は平成29年度より5件増加した。以前から特集コーナーの展示・入れ替えは1ヶ月単位で行っているが、その時々話題に合わせた小規模なコーナーも新設することで利用者の興味を引き、貸出につなげていきたいと考えている。次に、「シニア層へのサービス」については、平成29年度に引き続き、平成30年度も文庫本の買い替えを積極的に行った。最近の文庫本は以前よりも活字が大きくなった

ことで読みやすくなり、シニア層にもよく利用されている。続いて「障害がある方へのサービス」について、当館では耳の不自由な方にも楽しんでもらえるよう、日本語字幕入りのDVDを購入しており、平成30年度は新しいDVDを29本購入した。ただ、DVDは単価が高く、一度にたくさんは購入できないため、これから少しずつ増やしていきたい。最後に「多文化サービス」についてだが、平成30年度は一般書で洋書を6冊購入した。洋書は流通が特殊で購入自体が難しく、入荷が思うようにならない面もあるが、引き続き購入していく予定である。

簡単ではあるが、以上で平成30年度の進捗状況の報告を終了する。

会 長

なかなか聞き慣れない言葉もあると思う。新しく委員になった方で、質問や意見があればぜひ発表していただきたい。後からでも質問等は受付できるので、次の議題に進みたいと思う。令和元年度の図書館の事業実績について、事務局より報告してもらいたい。

(2) 令和元年度図書館の事業実績について

事 務 局

令和元年度の事業実績の報告について、冊子資料「碧南市の図書館2020」を中心に説明する。その前に、昨年度は新型コロナウイルスによる臨時休館があり、それが実績に大きく影響した。そこで、事業実績を報告する前に、新型コロナウイルスへの当館の対応について説明する。別紙の「新型コロナウイルス感染症への碧南市民図書館の対応」を見ていただきたい。まず、令和元年度は5年に1度の図書館システム更新時期であったため、当初の予定どおり2月末から3月2日まで休館し、3月3日から開館した。それから3月6日までは通常開館していたが、新型コロナ対策としてすぐに臨時

休館となった。委員のみなさまには、令和元年度の3月は予約資料の貸出を除き、ほぼ1か月間休館状態であったことをふまえ、事業実績の概要を聴いていただきたい。

では、まず「(1) 図書館資料の収集」について、「ア 図書」と「イ 視聴覚資料」についてまとめて説明する。

本館と分館を合わせた所蔵点数は、560,026冊。そのうち新規購入は10,418冊。全体で3,566冊の増加となり、前年度対比は0.7%であった。新規購入した資料で主だったものとして、洋書絵本など206点がある。これは、小学校での英語授業開始に合わせて購入したもので、資料の一部は、本館1階の階段下付近に新たに開設した「英文多読コーナー」に置いてある。このコーナーの資料は、英語で書かれた絵本と見た目は変わらないが、本の中に登場する単語数などによってレベル分けがされている。最初は絵だけのものから始まり、レベルを上げると登場する単語数やページ数が増えていき、読み進めていくことで自然と英語力が身につく学習教材みたいなものである。委員のみなさまにもこちらのコーナーをぜひご覧いただきたい。

次に、「ウ 逐次刊行物」とは雑誌や新聞のことで、令和元年度は新聞が11紙、雑誌は221タイトルを受け入れている。なお、今回配布した年報(2020年)の21ページに雑誌の一覧表が載っているが、この表は令和元年度の実績ではなく、令和2年度に購入する雑誌一覧である。次に、「(2) 図書館の利用に関する状況」について説明する。まず、登録者について、令和元年度の全体の登録者は45,774人。平成30年度の実績と比較すると6,724人の減となっている。これは、5年ごとに行っている図書館コンピューターシステムの更新時に、長期間使用していない登録者や、引っ越しなどの理由で碧南の図書館を利用しなくなった登録者など不要な登録者データを削除したためである。なお、登録

者のうち碧南市民は31,426人で、碧南市の人口の43%が図書館の利用者カードを持っているということになる。次に、入館者について説明するが、3月は新型コロナの影響を受けてサービス数値が例年より大幅に下がった。入館者数は247,117人で、前年度より8.9%の減少。また、利用者数（貸出をした人）は延べ110,254人で、前年度より4.4%の減少となっている。次に、資料の貸出点数は510,882点で、こちらも前年度より4.3%減少している。1月末時点での集計では、各数値とも昨年度をわずかに上回る見通しただけに残念な結果となった。一方で、新型コロナの影響で増加したと思われるものもある。それは、資料の「予約・リクエストサービス」の利用件数である。令和元年度は38,533件で、前年度より6%増加した。これは、臨時休館中でも予約資料の貸出のみ行っていたからだと思われる。また、この期間中、普段は受け付けできない電話やファックスでの予約も受け付け可能とした。予約方法としてインターネットの利用が前年度より11%増加している。通常であれば、館内に入って書棚を見てまわりながら自分の借りたい本を選ぶことができたが、臨時休館中はそれが出来なかった。そうすると、借りたい本を探すためには図書館ホームページにある蔵書検索を利用することになる。検索して自分の借りたい資料見つけたら、図書館にわざわざ電話をかけなくても、ネットならクリックするだけで予約ができるという便利さが、利用増加の要因と思われる。次に、その他の実績について報告する。まず、平成31年4月に、読書グループの「夢クラブ」が、「子どもの読書活動優秀実践団体」として文科省から表彰を受けている。本日ご出席の角谷さんが所属されている「かざぐるま」も平成25年に表彰されている。それより前は図書館自体が表彰されており、碧南市としては3回目の受賞となる。さらに、その他

の実績について、令和元年8月からは、より多くの方が自主学習できるよう、図書館2階の会議室が空いている日に限り、「集中部屋」として利用者に開放した。また、令和2年3月には、図書館システムの更新を実施。この新しい図書館システムの特徴として、まず、ホームページから返却期限の延長が可能になったこと。もう1つは、みなさんのお手元にある、へきにゃごのイラストが入った新しい読書手帳とシール(本のタイトル等が印字されたもの)がプリントできるようになった点である。このシールは、館内にある利用者用の資料検索端末から打ち出せるので、お薬手帳のように読書手帳に貼りつけていくことで読書の記録を残すことができる。他にも、図書館や本に関する情報を休館中にも発信できるよう、令和2年3月から公式ツイッターを開始した。

昨年度末から新型コロナ対策を行っているが、情報が日々更新されていくため、図書館もその都度さまざまな対策を考えねばならず、あわただしい日々が続いている。今年度も見通しはつかないが、感染リスクを減らすための対策をとりつつ、利用者の読書を楽しむ機会を減らさないよう頑張っていきたい。簡単ではあるが、以上で令和元年度の事業実績の報告を終了する。

会 長

はい。参照ページが次々と飛ぶのでついていくのが大変なところもあるが、この事業実績は次年度の取り組みにもつながる一番大事な部分である。事務局の方でも他に提案事項があれば意見を述べてほしい。委員の皆さんから何か質問はあるか。

A 委員

実績の概要について、碧南市の図書館の状況として、蔵書が540,181冊であることや、入館者が247,117人。それから、貸出冊数は約51万点であることはわかった。ただ、市役所なら財政力で他市との状況比較ができるが、図書館の場合は県内の他館の状況がわからないので比較できな

い。そこで、名古屋市や岡崎市、安城市などの大きな自治体を除き、人口6万から10万人前後の碧南市に類似した市町村の公立図書館では、どれくらい本があり、貸出がされているのか。また、どれくらい利用者登録がされているのか教えてもらいたい。

事務局

平成29年度でもよければ、手元に各館の蔵書数に関する資料がある。それによれば、田原市の蔵書は約46万冊である。

A委員

田原市の人口はどのくらいか。

事務局

碧南市と同じ7万人くらい。知多市も碧南市と同じくらいの人口であったと思うが、33万9千冊。それから、碧南市より少し大きいのが、隣接の西尾市は約73万冊。蒲郡市も碧南市の人口と変わらないと思うが、26万9千冊。碧南市よりもかなり人口は多いが、隣接している刈谷市は約88万冊である。貸出数については手元に資料がないが、現在、碧南市と同規模の人口で、1人当たりの貸出数が全国トップは大府市である。なお、このランキングにおける碧南市の順位は、真ん中より少し下くらいであったと思う。

会長

他に質問や意見はないか。ないようなので、次に、令和2年度の図書館の予算について、事務局より報告してもらいたい。

事務局

それでは、「碧南市の図書館2020」を使って、今年度の予算について報告する。「5 予算」の「(2) 図書館費」の構成については、昨年度と比較して増減幅の大きい予算項目のみ説明させてもらおう。まず、1節の需用費のうち、印刷製本費が前年度対比33%となっている。これは、前年度、延滞者へ送る督促はがきを補充するために印刷をかけたが、今年度はその費用が不要となったためである。同じく1節の需用費のうち、修繕料が前年度対比194.4%となっている。これは、今年度に本館地下にある電動書架の修繕を行うためである。続いて、13節の委託料については、前年度対比74.7%となっているが、これは、前年度に図書館の利用者

カードを18,000枚追加作成したためである。なお、この枚数は約6年分にあたる。次に、14節の使用料及び委託料については、前年度対比80.6%。これは、前年度にリース期間満了にともなう図書館コンピューターシステムの更新を行う際、プロポーザルを実施したことで以前よりも低価格で契約できたためである。最後に、資料購入費については、図書と視聴覚資料とを分けて記載している。図書の購入費は前年度対比99.1%と微減であった。新聞、雑誌については資料購入費ではなく、11節需用費の消耗品費に入っており、購入予定数は昨年度とほぼ同数を予定している。以上で予算についての報告を終了する。

事務局（中部） 次に、今年度実施予定の事業について説明する。まず、今年度の事業の特徴として、小学校でのプログラミング授業開始に伴い、コンピューター教育用の図書購入費を予算化した。また、児童に関しては「碧南市こども読書活動推進計画第四次」の策定を予定している。年間の行事については、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、前半の事業を中止、延期せざるをえなかった。毎年7月に開催している「音楽と朗読の夕べ」については、感染状況を見つつ、友の会と相談しながら開催するかどうかも含めて検討する。ただ、昨日も愛知県で新たな感染者が5名確認されている。各館とも事業を行うにあたっては、開催時期やどのような予防策を講じるのか検討しながら慎重に進めていく必要がある。新型コロナウイルスの影響で外出を控えて家庭で過ごす時間も増えている。これを機に、図書館としては各家庭での読み聞かせや読書時間を充実させるための事業を展開していきたいと考えている。以上で、今年度の実施予定事業について説明を終了する。

会 長 中止になった事業がたくさんあるが、それに関することでもよいし、他のことでもよいので何か質問はあるか。

A委員 予算の全体はよくわかった。令和2年度は、令和元年度より

90.3%と1割程度予算が減っているのは、さまざまな理由があつてのことだろう。今年度はもう予算が確定してしまつているので、来年度以降の要望として聴いてもらいたい。実は、友の会は今年で30周年を迎えた。今の中部分館が図書館本館であつた4、50年ぐらい前は、図書館主催の講座からたくさん読書グループができた。自分が知る限りでも、源氏の会だとか、万葉の会、それからキリークなどがある。以前は、図書館の講座を起点にいろいろな読書グループが生まれたわけだが、最近は講座等がほとんど実施されていない。講座の開講数は5回が適当なのか、7回あるいは10回が適当なのかはわからないが、例えば春に1回、秋に1回、市民や友の会のメンバーも含めて、みんなで読書に親しめるような講座を開催してもらいたい。それと、可能なら単発で講演会のような催しもしてもらいたい。図書館で講演会を開催するとなると、机を置かない状態で50人も入れるかどうかのキャパシティしかない。さらに、今年は新型コロナの関係で密になってはいけないといわれている。それでも、年に1回ぐらいは開催してみてもどうか。名古屋近郊の人に講師を依頼すれば、さほどお金もかからないと思う。公民館などが社会教育事業として実施する講座の講師料は1講座7,000円ぐらいである。仮に、1講座7,000円程度の講師料として、10回開催したら7万円はかかってしまうが、図書館にはその講師料の予算を確保してもらいたい。そして、来年度のこの会議で配布される予算資料に、講座や講演会開催の予算が計上されていればありがたいと思う。図書館は積極的に講座や講演会を開催し、もう少し（図書館を）アピールしてもらいたい。

会 長

委員からの要望として、図書館には来年度、再来年度に講座や講演会などを実施してもらいたいとのことである。図書館での講座といえは、音声訳講座とか読み聞かせ講座以外はあ

まり聞いたことがないので、A委員がおっしゃるような講座や講演会の開催を私も希望したい。

A委員
会 長
B委員

40年くらい前は頻繁にあった。

その他に質問、意見などはあるか。

現在、講座などは開催しにくい状況である。自分のような経営する側の立場からすると、今後はウェブ上でZOOMを利用するなどして、密にならないよう開催する流れになっていくと思う。今までのように一か所に集中せず、それぞれが居る場所から会議に参加することになる。そのような場合、会議を開催するときに、どのように参加者を集めればよいか考える必要がある。ウェブ配信とリモートで行うにしても、時間によっては有料のものもあるため、主催者はみんなが参加しやすい土台作りをし、PRしていくことになるだろう。また、新型コロナの影響で美術館や博物館などが利用できなかった時、ある動物園ではバックヤードから動物たちの様子を撮影し、普段見ることのできない姿をウェブ上にアップし、閉園中でも多くの人に動物園の魅力を伝えていた。こういう状況下だからこそ、いつもとは違う方法、側面から図書館の魅力を伝えてみてはどうだろうか。先程、ネット利用者が増えてきているとの話もあったので、例えば、ウェブ上で職員がおすすめの本の内容を噛み砕いて説明するなど、もう少し手厚くしていくと、利用促進につながるのではないだろうか。

会 長

私は、インターネットは若い人たちが中心の世界（自分にはなかなか馴染みのない世界）だと思ってしまう。自分はスマホの操作でも汗をかきながら、右見て左見て一生懸命やっ

ていて、本当におたおたしてしまう。ただ、インターネットを今後充実させるのは（利用者層の幅を広げる）良いアイデアだと思う。

先ほどの報告の中で、学年別とか年齢別の本の推薦リストを提示したと聞いたが、どの程度まで進めたのか。

事務局

毎年夏休み前に、小学校低学年、中学年、高学年、それと中学生向けにおすすめの本のリストを学校へ送っており、その内容は毎年更新している。また、館内に置いてある、幼児から小学1年生になったばかりの児童におすすめする本のリストについては、すべて図書館で作成している。平成30年度にこれらの内容を更新した。本を選ぶのに慣れていない人はひとりではなかなか選べないため、私たち司書に相談されるケースが多い。そういう時に、これらのリストを見せながら、この中からご自身が興味を持った本を借りてはどうかとアドバイスすることもある。新型コロナはしばらく続くと思われるので、ホームページでおすすめの本を紹介するなど、ネットからの情報発信を強化していきたいと考えている。ホームページが図書館の第三の窓口になるというイメージで、利用者へのサービスをしっかりと組み立て、充実させていきたい。

会長
C委員

それでは、質問をどうぞ。

今までいろいろと説明してもらったので、その中でも気になるところだけかいつまんで話をさせていただきたい。まず、進捗状況の中で団体貸出が伸びている話、それから資料を充実させたこと。さらに、小学校での英語授業導入にあわせ、英文多読コーナーも作ったとの話を聴き、市民図書館が学校の子どもたちのために本当に骨を折ってくださっているのがわかった。また、子どもたちにとって将来何が必要になってくるか、先を見通しつつ資料選びに心を砕いてくれていることにいつも感謝している。今後もぜひ、子どもたちのために頑張ってもらいたい。

先程からいろいろと説明してくれたが、私から図書館への質問とお願いがある。まずは質問から。図書館システムが更新されたことで、こんなにもかわいらしい読書手帳がプリンターから出せるようになった。それから、今までは図書館に来

館しないと出来なかった資料の貸出期間延長が、インターネットからもできるようになった。これらについて、私は今回の会議ではじめて知ったが、全体（利用者）への周知（PR）はどうなっているのか。ヤングアダルト通信で周知したのか、それとも別の何かを使って周知したのか知りたい。ネットから貸出期間の延長ができるとわかっていれば、わざわざ足を運ばなくても済む。こういった便利な情報をより早く知るには、利用者は何を見れば良いのか。

それと、新しくできた図書館の読書手帳を学校でもそのまま利用できないだろうか。小学校では、各校でわざわざ読書カードなるものを頑張って作っているので、図書館の読書手帳のデータがさっと取り出せて印刷できれば手間がかからなくて良いと思う。ただ、小学校のパソコンと図書館のパソコンが繋がっていないので取り出すのは無理かもしれないが、各小学校へ周知するだけでも喜ばれるかもしれない。

それと、これはお願いになるが、コロナ対策について教えてもらいたい。現在、各小中学校の図書室でも本の貸出を行っているが、返却の際には本を消毒液で拭いたり、図書委員の手が直接触れないよう本の手渡しはしない、とか、子どもには本をさわらせず、すべての工程を教員が行うなど、さまざまな方法で対応をしている。私も本が好きなので、学校図書室の本をよく読むが、本を触ると表面がぺたぺたしているように感じる。おそらく、消毒液をかけているせいだろう。現状、各学校で適切な対応がわからず、暗中模索しながらそれぞれ対策を立てている。そこで、学校に対し、図書館から消毒方法などを指導してもらえないだろうか。こうすると本が傷まずに清潔になるとか、この液体で拭くと良いだとか、有効な感染症対策を指導してもらえないだろうか。

事務局

まず、読書手帳については、図書館のホームページからダウンロードでき、A3サイズ対応のカラープリンターがあれば、

自宅でプリントアウトすることができる。ご指摘のあったPR方法については、実は、これからPRを進めていこうというタイミングで新型コロナが流行したため、まだPRが十分にできていないというのが正直なところである。もうすぐ夏休みになるので、これからPRしていこうと考えている。次に、本の消毒については、現在、日本だけでなく世界中でどのような消毒が有効なのかいろいろな研究が進められている段階である。ほんの少しのあいだ情報収集をしていないだけで、今までとは違う新しい情報が続々と出てくる。今のところ、紙の場合は24時間ウイルスが生存可能といわれており、ビニールコーティングしてある本の表面については、何もしなければ3日間は感染できる状態でウイルスが生存しているとの研究結果が出ている。もし、本にウイルスがついていた場合どのようにして減らせばよいのか、当館含め他館でも悩ましいところである。一番確実な方法は、何もしないで本を3日間放置する方法である。この方法なら、本の拭き取りをしなくてもウイルスは感染力を失う。しかし、利用者が触れたすべての本を3日間も隔離することは、図書館としてはできかねる。そこで、一定濃度のアルコールで拭き取ることで感染力が下がると国が言っているので、当館ではこの情報に基づいてできる限りの対策をしている。結局のところ最終的には、本であれ何であれ、何かを触ったときには手をきちんと洗うのが一番の感染抑制になると専門家も言っている。よって、こまめに、しっかりと手洗いするのが一番の感染対策である。

会 長
D 委員

他にご意見はあるか？感想でもいい。

感想になるかもしれないが、令和元年8月から利用を開始している集中部屋についてお聞きしたい。自分が中学生の頃は、テスト週間になると図書館で勉強をさせてもらっていたが、今は図書館まで足をのばす子どもを見なくなった。かわりに、

最近では商業施設に集まってテスト勉強をしているようだ。自分の子どもにはそういう行動は控えるよう言っているが、ファーストフード店などでも集まっていると聞く。私は、多くの学生が商業施設などで勉強しているのが気になっている（いかがなものかと思っている）。そこで、図書館の集中部屋がどれくらい利用されているのか教えてもらいたい。

事務局

集中部屋は、事前に近隣の中学校・高校のテスト週間を調べ、その期間中、読書グループが図書館会議室を利用しない日に限り、自主学習のための部屋として開放したものである。令和元年8月から開始し、当初はPR不足でなかなか利用がなかったが、数か月後には利用が増えたので今年度も実施したいと考えていた。しかし、会議室は窓がないため、感染リスクを考えると開けるのは難しい。やはり、図書館で勉強したいという学生は多く、当館としても使ってもらいたいと思っている。ただ、学生が図書館を利用したい時期はテスト週間などの一時期だけに集中していて、その期間に、本を読んだり、調べものを目的として図書館に来館した人たちは、学生たちに座席を占拠されてしまい、利用できなくなる恐れがある。そのため、学習目的とそれ以外の目的で来館した人と利用エリアを分けるなどの対応も必要である。図書館に来る目的は違っても、誰もが利用していただけるようなバランスのとれた対応策を考えていきたい。

会長

図書館というのは、子どもたちにとって学習部屋というイメージがすごくあると思う。静かな環境で調べ学習などができ、とても良い環境である。私も地域の区民館とか、それから公民館の中にある小さな図書館（室）などで学習している子を見たことがある。また、スーパーの中にあるパン屋のとなりのテーブル席で勉強する子を見かけたこともある。子どもたちは一生懸命静かな環境を探しているので、図書館が子どもたちの快適な勉強場所になっていけると良いと思う。

E 委員

私はずっと、小さい子どもを相手に読み聞かせをしてきた。今、自分の娘が刈谷と安城に住んでおり、子育て中なので、碧南の図書館と地元の図書館とを比べてみて、どう違うのか感想を聴いてみた。まず、安城の図書館は新しくて、碧南とは全く違う空気（雰囲気）で、もっとにぎやかで楽しい図書館というコンセプトでやっているみたいとの感想だった。自分が碧南の図書館でおはなし会をするときも、静かにしなくてはいけないという空気がなんとなくある。20年程前は、おはなし会といえば子どもたちが30人ぐらい集まり、部屋が満室になるほどだった。しかし、今は1人か2人しか集まらない日もあり、以前よりおはなし会の参加人数が減ってきている。なので、もう少しにぎやかさのある図書館にできれば良いなとずっと思っていた。しかし、先程から委員のみなさんや事務局の話を聴いていると、図書館とは、中学生にとっては集中して勉強できる空間であり、大人にとっては静かに読書を楽しむ空間でもあるため、子どものためだけににぎやかにすれば良いというものでもなく、子どもから大人までそれぞれの要望をバランスよく取り入れて居心地の良い図書館をつくっていくことは難しいことだとわかった。

会 長

喫茶店で本を読む人もいるし、コーヒーチェーン店などで勉強している大学生も結構いる。そういうにぎやかな中でも勉強できるような場を設定した方が良いのではないか。

F 委員

今日、事務局の話を聞いて、新型コロナのせいで図書館での触れ合いが難しく、理想的な活動ができない状態であることがわかった。自分も、学校でクラスターが起らないことを本当に願っているし、図書館でもクラスターが発生してしまうことが一番怖いことだと思う。図書館としては、いろいろな思いがあるだろうが、今はとにかく、新型コロナをうまく乗り切ることを一番に考え、本年度は理想的な活動はちょっと置いておく（休止しておく）くらいのつもりで、運営して

会 長
G 委員

もらえれば良いと思っている。

石川委員はどうか。

私は小学校へ5年間行かせてもらっているが、今年は特に新型コロナの影響もあって、子どもたちをあまり外で遊ばせることができなかった。教室内でもソーシャルディスタンスをとらせているため、生徒が1人になる時間が非常に多かった。そういうときに子どもたちは何をしているかというと、本を読んでいることが多かった。朝読書の時間になると、10分ないし15分程度の限られた時間の中で、私が現職だった頃より、みんな静かに、そして真剣に本を読んでいた。また、午前8時頃に教室に行くと、朝読書の時間が始まる前から本を読んでいる子もいた。新型コロナによって今まで通りとはいかない状況ではあるが、子どもたちにとって良い面(作用)もあったのだと感じた。そこで、以前の会議でもお話しした小学校への団体貸出について要望がある。現在の団体貸出は、先生たちが学期に1回、図書館から借りた本を返しに行き、その際、図書館があらかじめ学校、学年ごとに選定してくれた本をあらためて借りていくという流れである。ただ、借りてきた当初は子どもたちも一生懸命本を読んでいるが、学期後半になると全て読み終わってしまう子どもも出てくる。そうになると、読み終わった本を読むしかなく、読書に集中できない子も出てくる。今年の場合、1学期分として借りてきた本を6月から読み始めたが、7月頃にはすべての本を読み終えてしまい、読書に集中できずにきょろきょろと辺りを見回す子もいた。予算的な問題や人的な問題もあるかと思うが、図書館から学校への貸出のサイクルをもう少し早くできないか。それと、教師が図書館へ取りに行くのは大変なので、その点もなんとかできないだろうか。それらの問題が解決して団体貸出が上手にまわれば、子どもたちも朝読書の時間や自習の時間等で今よりもっと多くの本を読むことができ、読

書時間も増えると思う。予算的な問題等を解決できるような妙案はなかなか浮かばないが、団体貸出がより上手に機能するといい。

会 長

以前は200冊とか何百冊と（図書館から）運んで、現場で活用させてもらっていた。おそらく今は、新型コロナの対策でできないのだと思うが復活するといい。

A 委員

ここでお話ししたいことが2つ、3つある。

まず、図書館システムの更新については、友の会が作成・発行している『航海日誌』の最終ページで大きく取り扱っている。『航海日誌』は4ページで構成されており、そのうちの1ページ、もしくはその半分くらいのスペースを使って、図書館から友の会会員へのメッセージを毎回掲載している。今回はこのシステム更新に関する記事を掲載したので、みなさんにもぜひ一読していただきたい。

それから、先程、学生が公民館の図書室で勉強しているという話があったが、市内に7つある公民館のうち、日進、鷺塚、中部の図書室は個人的に週に2、3回程度行くが、必ずと言っていいほど子どもが2、3人はいる。中学生の方が多いが高校生も勉強している。図書室にいる子どもたちは、本を選んでいるわけではなく、勉強に快適な部屋だから利用している。なお、区民館については区が管理する建物なので（子どもたちが学習で使用しているか）把握はしていない。それと、棚尾公民館の2階に広い図書室があるが、ほとんど使われていない。そこには多くの本が置いてあるが、昨日、受付のシルバーさんに聞いたところ、借りていく人はほとんどいないとのことだった。また、西端のコミュニティーセンターは、通路に本棚が並んでいるだけで部屋にはなっていないため、勉強している学生は見たことがない。今後は、公民館図書室の本がもっと利用されるよう、図書館からPRするとか、もう少し資料の充実に力を入れていただきたい。それと、最後

に1つ、みなさんへのお願いというか宣伝になるが、図書館の年報に、「平成2年9月14日 碧南の図書館友の会発足」と書いてある。今年は友の会が発足して30年である。自分も今年の4月から会長になり、5月に友の会の関連資料を整理していたところ、アルバムなどが出てきた。そこで、役員4人で役員会を開き、せんだってでは会長経験者3人と役員で30周年の節目をどうするか検討した。また、来週には世話人会を開く。そこで、記念事業として何を実施するかを大枠で内定したいと考えている。実施内容(の案)としては、簡単な記念式典の開催や「30年の歩み」(友の会の30周年記念誌)を作るつもりで準備を進めている。新型コロナの影響を一番受ける時期かもしれないが、来年の3月に式典とか感謝状贈呈みたいなことを計画している。「30年の歩み」は本を作るだけなので、コロナとは関係なくやれるはず。ただ、式典と感謝状贈呈については3月中旬の土日のどちらかで半日程度で開催したいと思っている。特に、教育長と部長とは日程調整しながら進めていきたい。それから図書館協議会委員のみなさんにも、ぜひ参加していただきたいので案内状を送らせてもらおうと思っている。新型コロナの第2波、第3波が来て、愛知県も危ないとなれば当然中止するが、できるかぎり万全な体制で進めていきたいと思っているので、ご協力をお願いしたい。以上。

会 長 次第の「その他」について、事務局からも2点ぐらい連絡があるそうだが。

事 務 局 まず補足から。先ほど質問のあった集中部屋の利用者数については75人であった。ただ、集中部屋は毎日開いているわけではなく、開けた日すべての利用者数を足した数である。それから、連絡事項として次回の第2回の協議会は、令和3年の2月末から3月を予定している。議題としては、碧南の図書館サービス計画第二次についてと、本日、平成30年度

の報告をさせてもらったが、次回は令和元年度の進捗状況を報告する。また、今年度の計画でも少し触れたが、「碧南市こども読書活動推進計画（第四次）」が本年度策定となっているため、完成したものを報告する予定である。

会 長

これで第1回図書館協議会を終了する。